

フリー・ハンデ キヤップ

1966年

このフリー・ハンデキヤップは本会のハンデキヤップバー木村正、吉田彰、浜学、近藤俊輔、小野光男、鈴木繁、田中邦夫、藤田明徳の諸氏の作成による。とくに説明を加えることもあるまいが、三才上位にランクされた馬の成績を簡単にふりかえってみよう（編集部）

4歳	5歳以上
ティトオーラ	59
ヤマニリュウ	58
リユウファーロス	58
ニホンピローエース	57
ハードイット	57
アポオンワード	56
シバハヤ	56
ソロモーン	56
キヨウエイヒカリ	55
タインシユウ	55
タイキクモ	54
カヨカズ	53
セカメリ	52
ミスコト	52
ブルターハ	51
ヤヌウ	51
ロツキー	51
トオ	51
スイスト	61
ハツライ	61
バリモス	60
ダイコ	58
エイトク	57
ゴールデン	56
タク	56
チセラ	56
パワーラ	56
コウラ	55
エラム	55
タニノライ	53
リユウ	53
カツユ	52
エバー	52
グレート	51
パシカリ	51
ミスニホン	51
ミスハツ	51
ライオ	51

関東のトップウェイトは朝日盃優勝馬のモントサン（牡 モンタヴァルリユウリキ 馬主 古知政市氏 矢野厩舎）。7月2日の函館でデビューし、そのときはフラー1コ1トウの四着であった。第二戦目は二週間後でシャネルに1馬身の二着してかなりの良化をみせた。ついで、札幌に転じキンコンに2馬身の差をつけて初の勝利を記録した。

これでいったん休養し、中央場所は10月22日の東京の特別に挑戦、13番の大外であつたが激しいレースに競り勝って、一二〇〇斤1分12秒8で優勝した。次の京成盃は意外に振わず四着に終つたが、朝日盃ではよく本領を

発揮してメジロフレームをさしきつて栄冠を得た。1分37秒4のレコード・タイムもさることながら、それ以上に勝負強さが注目された。

リュウズキ（牡 カバーラップ二世）

カン 馬主 福井草哉氏 矢倉厩舎。6月

26日の函館から出走し、シーエースらを降して初陣を飾った。第二戦目は函館三才ステークス、このときはコキンホース、キクノフドウの三着であった。しかし、つづく札幌では一〇〇〇を1分0秒6で楽勝、北海道三才ステークスでもヒーローブラスに6馬身の差をつけて快勝した。1分11秒0の勝ちタイムは

中山に帰つてからのリュウズキも強いの一語についた。11月12日の一二〇〇斤ではムネヒサを3馬身差に降して1分10秒8のレコード、朝日盃前のオーブンでも、トヨミナミ、コキンホースを軽く破つて勝っている。しかし朝日盃を直前にして裂蹄を生じ、大事をとつて朝日盃は見送つた。そのためモンタサンより1キロ減とはなつてはいるが、その実力は優るとも劣らぬものとみられる。

現在、既に軽い調教がすすめられており、弥生賞への出走が予定されている。

メジロフレーム（牡 ライジングフレーム）

IIクニノボリ 馬主 北野豊吉氏 八木沢厩舎。9月18日の新潟から使われ三連勝した。すなわち第一戦はマツタカラに6馬身差をつけて稍重の馬場で1分0秒4、第二戦ゆきつけばき賞ではスペークらを降し、一〇〇〇

斤59秒2のレコード、第三戦はその自己のつくった記録をさらに破つて59秒1で勝つた。次のえぞぎく賞はブラックスワン、コキンホースの三着であったが、京成盃ではキャットエイトらに逃げきり、朝日盃でも粘りに粘つて二着を確保している。

コキンホース（牡 ラツシード）

カールカーリル、ブラックスワン（牡 エイトラックス）

IIサチノヒメ）、ヤマニンカツブ（牡 ヒン

ドスタン）IIクキーン（ユーリップ）の三馬が55kgであるが、コキンホースは前半での活躍が目立つた。ブラックスワンは中山の牝馬特別の鮮かなレースぶりから、朝日盃でも一番人気になつたほど。ヤマニンカツブは東京三才ステークスの優勝があり、一部ではその将来性を高く買われている。

関西ではサトヒカル、タイギョウ、ヤマビ

ツトの三頭がトップ・グループ。タイギョウ

（牡 フックマニード）オペイド 馬主 中山

前年バーバーホープが樹立したレコードを一秒8も破つたもの。総体的に時計のよかつたこの年の札幌競馬ではあったが、この記録はこの年の札幌競馬ではあったが、この記録は注目に値し、早くも来年のダービー候補と評価された。

関

東

3歳	4歳	5歳以上	3歳
モントサン	56	ナスノコトブキ	59
リュウズキ	55	スピードシンボリ	58
メジロフレーム	54	ショウグン	56
コキンホース	53	オンワードヒル	55
※プラツクスワン	53	シエスキイ	55
ヤマニンカツブ	53	タマシユウホウ	55
スズハヤテ	52	ヒロイサミ	55
ホウゲツオー	52	ヤマヒビキ	55
マツタカラ	52	メジロサンマン	54
ムネヒサ	52	キヨシゲル	53
※カツラジユニヤー	51	ダイニセエチヨウ	53
キヤットエイト	51	ヒロヨシ	53
スマートオー	51	ボルトムサシ	53
※スイートフラッグ	51	メジロボサツ	53
ハクセンシヨウ	51	ネイチブランナー	52
※キクノフドウ	50	ハイアデス	52
※ダイイチスズワカ	50	タカトキ	51
ミネシオ	50	ハーバーホープ	51
ユウユウ	50	ヒシヤクシン	51
※ヨウクン	50	カツラクラウン	50
関			
西			
サトヒカル	(牡)	コダマリフレームクイーン	55
馬主 鴨常一氏	大久保亀厩舎	ハイヨツ	55
コダマアトムの名で函館から走り、最初は着	※タニノクレイマント	53	
外だったが、第二戦でクインスターに首差の	タマフネース	53	
二着。その後も二着を二回して新潟に転戦、	イマージモア	52	
タニノクレイマントを3馬身降し最初の一勝	オーリバツツ	52	
をあげた。	クハイドブル	52	
この馬は堅実に着は得ても、いま一つ勝味	ヒローブラス	52	
に乏しいようなところがあつたが、年末に至	アトラス	51	
つての充実は著しく、銀杏特別、芙蓉特別の	オーゴンリュウ	51	
二つの特別レースを連覇、三才ステークスで	カミヤシユーホー	51	
も大外の不利にもかかわらず、タイギョウを	キングボツスル	51	
鼻差の二着で脅やかした。	※グレイシヤスクイン	51	
ヤマビット(牝 ソロナウエーリキュー)	シバフジ	51	
ツト馬主 小林信夫氏 浅見厩舎)。9月	ライジングバンブー	51	
京都の新馬により、第一戦をダンサーに大差	イズ	50	
をつけて勝ちとった。第二戦は京都の三才ステー	イトミス	50	
クス、これは雨不良の馬場であったが、	ハフクネグ一	50	
やはりケンランに大差をつけ、桁違いの強さ	※キシ	50	
を示した。次の楓賞は一五〇〇分31秒5の	スリーリングム	50	
レコード、さらに三才ステークス一六〇〇が	※ハフジエ	50	
を1分38秒0、いずれもレコードという快速			
ぶりであった。阪神三才ステークは三着で、			
同馬がはじめて敗れたレースであった。			
タニノクレイマント(牝 クレイマント)			
クインブヤン)は新潟と京都で一勝ずつをあ			
げているだけだが、サトヒカル同様、連戦健			
闘した実績が買われたものであろう。また抽			
せん馬タフネス(牡 アポツスルサンダーボルト)は小倉から9月の京都まで五連勝を			
記録したが、故障が生じ後半戦を休んでいた。			
しかし、その後、立直って正月競馬から			
出走している。			

※印は牝馬
(四歳以上は省略)

戦を戦いイトハンの二着だったが、第二戦は不良馬場でハーバーワエーブに大差をつけて勝ち上った。帰厩後は桔梗特別が四着、ひいき賞が二着であったが、本番の阪神三才ステークスでは展開に恵まれたとはいえ、1分37秒0のレコード・タイムで逃げきった。なお、1月15日のシンザン記念にも勝つて、三才Sの勝利がフロックでなかつたことを実証した。

サトヒカル(牡 コダマリフレームクイーン 馬主 鴨常一氏 大久保亀厩舎)。はじめコダマアトムの名で函館から走り、最初は着外だったが、第二戦でクインスターに首差の二着。その後も二着を二回して新潟に転戦、タニノクレイマントを3馬身降し最初の一勝をあげた。

この馬は堅実に着は得ても、いま一つ勝味に乏しいようなところがあつたが、年末に至つての充実は著しく、銀杏特別、芙蓉特別の二つの特別レースを連覇、三才ステークスでも大外の不利にもかかわらず、タイギョウを鼻差の二着で脅やかした。

ヤマビット(牝 ソロナウエーリキュー)ツト馬主 小林信夫氏 浅見厩舎)。9月京都の新馬により、第一戦をダンサーに大差をつけて勝ちとった。第二戦は京都の三才ステークス、これは雨不良の馬場であったが、やはりケンランに大差をつけ、桁違いの強さを示した。次の楓賞は一五〇〇分31秒5のレコード、さらに三才ステークス一六〇〇がを1分38秒0、いずれもレコードという快速ぶりであった。阪神三才ステークは三着で、同馬がはじめて敗れたレースであった。

タニノクレイマント(牝 クレイマント)クインブヤン)は新潟と京都で一勝ずつをあげているだけだが、サトヒカル同様、連戦健闘した実績が買われたものであろう。また抽せん馬タフネス(牡 アポツスルサンダーボルト)は小倉から9月の京都まで五連勝を記録したが、故障が生じ後半戦を休んでいた。しかし、その後、立直って正月競馬から出走している。